

2022年度
前期

就職 / 転職を目指す社会人対象!!

海を仕事にしませんか!! 海運業界では、皆さんのヤル気を待ってます。

六級海技士募集

航海科



機関科



六級海技士(航海)第一種養成短期養成科

定員	24名
募集期間(出願期間)	1月20日~3月14日
選考日時(選考試験)	3月17日 午前10時
訓練実施期間	4月19日~9月15日 (予定)

六級海技士(機関)第一種養成短期養成科

(公財)日本船員雇用促進センター主催予定

定員	24名
募集期間(出願期間)	5月~6月
選考日時(選考試験)	6月中旬
訓練実施期間	7月中旬~12月下旬 (予定)

★ 後期は、2022年秋開講予定です。

徳島阿南校

機関科1期生募集中!!

選考試験: 2月23日

訓練実施期間: 4月1日~9月16日(予定)



入校資格

講習開始日までに18歳に達し、選考試験に合格した方

選考試験場所

一般財団法人尾道海技学院(尾道海技大学校)(予定)

選考試験内容

■ 面接 ■ 筆記試験 ■ その他(身体適性・書類審査)

訓練目標及び
訓練で取得できる資格

この養成科では、全く乗船経験がない方(通常では2年以上の乗船履歴が必要)でも、短期間(約10.5ヵ月)で、職業船員の登竜門である「六級海技士(航海)」又は、「六級海技士(機関)」の資格が取得でき、船長や機関長への道が開けます。

受講のために必要な費用 裏面参照

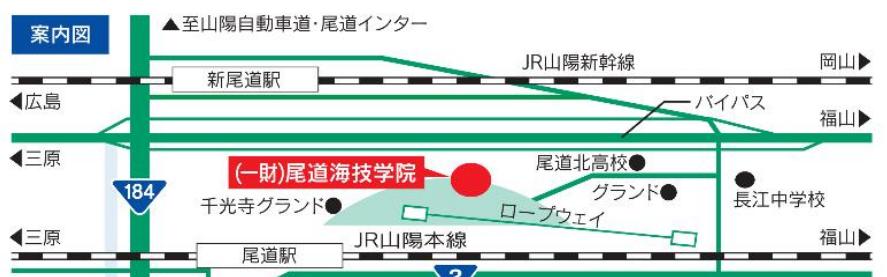
※離職後雇用保険受給資格のある者は、船員の「公共職業訓練等」の制度が利用できる。公共職業訓練等の指示を受けることにより、受講中に失業保険や技能手当等受給可能。

一般財団法人 尾道海技学院

尾道海技大学校

広島県尾道市栗原東二丁目18-43

TEL.0848-37-8111 FAX.0848-37-8110



就職・転職を目指す社会人対象

① 特徴、セールスポイント

- 内航船舶への就職に求められる六級海技士免状(航海・機関)の取得には通常は2年以上の実務経験が必要です。
本科では訓練過程を修め、卒業後6ヶ月(有給休暇は除く)以上の実務経験を積み、身体検査に合格すれば六級海技士免状が取得できます。
- カリキュラムのうち、2ヶ月は実際の内航船舶等に乘船して実習を行います。

② 想定している受講生 (こんな方に受講してほしい)

- 海が好きで憧れているが、今まで船員になるための教育を受けてない方
- 短期間で、海技士資格を取得し、船員として就職を目指し、協調性と向上心のある方
- 海洋環境にやさしい大量輸送手段である船舶で、環境保全に貢献したい方
- 船長や機関長を目指し、目標に向かって努力することのできる方

③ 就職先で想定している知識・技能(スキル)

- 船舶育成に関する法令・基準に従い、船員として必要な基礎的な知識、技能を指導していきます。
- 船員としての心得・認識・価値観が持てるよう、特色のあるカリキュラム編成を行います。
- 海運業界の動向や船舶の運航形態など最新情報を提供し、業界に必要な人材の養成に努めます。
- 社船実習では、個々のレベルや特性を考慮し、シーマンシップが育めるように展開していきます。

④ 就職支援の内容

1. 職業相談の実施
2. 履歴書作成指導
3. 面接にあたっての指導
4. 求人情報の提供
5. 各種就職説明会の案内
6. 船員職業紹介事業所(学内)の就職支援

⑤ 受講支援の内容

1. 船員の「公共職業訓練制度」が利用できる。(受給資格条件あり)
2. 教育訓練給付制度(厚生労働省)指定講座(給付に条件あり)
※詳細は、最寄のハローワークにご相談下さい。

⑥ 受講に必要な費用

1. 受講料 航海コース(420,300円)(資格取得費、教本/教材費・保険料含む)
機関コース(427,000円)(資格取得費、教本/教材費・保険料含む)
※機関コース(公財)日本船員雇用促進センター主催の場合は、助成金により173,020円
2. 作業服・帽子等の作業用品 航海コース:21,500円(安全靴含む)
機関コース:9,500円
3. 社船の費用 実習船における実習期間中の宿泊費・寝具等の負担はないが、食費(1日あたり3食1,300円程度)は訓練生負担
4. 社船のための交通費 実習船の停泊している乗船地までの交通費及び下船地よりの交通費は訓練生負担
5. 宿泊費
6. その他 オプション資格取得等
※詳細は、募集要項をご参照ください。

⑦ 訓練の内容

六級海技士(航海)の科目の内容			六級海技士(機関)の科目の内容				
科目	内容	時間	科目	内容	時間		
学科	航海学Ⅰ	国内航海における航海術(航海計器・航路標識等)	35	学科	機関Ⅰ	出力装置・プロペラ装置	122.5
	航海学Ⅱ	国内航海における総合航海術(航海計画・地文及び電波航法等)	35		機関Ⅱ	補機・電気/電子工学・自動制御の概要と計測器・甲板機械	157.5
	運用学Ⅰ	船舶の構造・設備・貨物の積み付け・船の安定(復元性)	50		執務一般	燃料油/潤滑油・操船工学・機関に関する基礎知識	70
	運用学Ⅱ	操船・海象及び気象・非常時の措置(衝突・乗揚げ・火災・救助・救援)	55			当直及び保安救急・船舶による環境汚染防止・損傷制御	
	海事法規(安全・衛生)	海上交通法規・海事関係法規(海洋汚染防止・船舶安全法)	67			電気設備・船内作業の安全・海事法令及び国際条例	
就職指導	船員法に定める船内生活及び船内作業における安全・衛生履歴書の書き方・面接対応	15	就職指導	履歴書の書き方・面接対応	15		
実技	航海実技Ⅰ	(1)航海術(航海計器・航海標識・水路図誌・潮汐及び海流)の演習 (2)速力計算・自差測定・陸標及び航海計器による船位測定の実習	25	実技・実習	機関実技Ⅰ	ディーゼル機関分解・整備・組立・調整	24
	航海実技Ⅱ	(1)総合航海術(備瀬瀬戸・来島海峡・航海計画及び航海)の実習 (2)海事法規の応用実習・航海当直及び停泊当直等の実習	25		機関実習Ⅱ	補機整備(操舵・ポンプ・工具・船内工作機・電気実習)	
	運用実技Ⅰ	(1)船舶の構造・設備・船の安定(復元性)実務確認 (2)操船の実習・気象海象の演習	20		機関実習Ⅲ	自動制御・計測装置の取扱	18
	運用実技Ⅱ	(1)船舶の構造・設備・船の安定(復元性)実務確認 (2)操船の実習・気象海象の演習	20		その他	船内応急工作・ガス切断・アーク溶接等 応急医療(救急法基礎訓練)	
	乗船実習	安全衛生・非常時の措置(救急法・AED・水上安全法等)の実習 実際の内航船舶に乗船し、実務を習得	35		乗船実習	実際の内航船舶に乗船し、実務を習得	245
	計		245		計		
	計		680時間		計		680時間

⑧ 就職の実績

この養成科の船員職への就職率 **95.7%** (平成30年3月末までの各回平均実績)